

# 商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2024年11月調査結果-

## 調査概要

- 調査期間 2024年11月11日～11月30日
- 調査対象 200社
- 回答企業 133社
- 回収率 66.5%

### ※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

## 旭川市概況

※全産業の11月の状況を見ると業況DIは、前月より0.2ポイント悪化の▲21.8となった。

2017年9月以来87ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲18.8、当月と比べ3.0ポイントの改善が見込まれる。

## 旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

	2024年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 2024年12月～ 2025年2月
業況	▲35.3	▲24.4	▲18.7	▲24.2	▲21.6	▲21.8	▲18.8
売上	▲19.6	▲17.8	▲12.3	▲18.8	▲13.1	▲8.3	▲16.6
採算	▲35.4	▲27.4	▲24.5	▲25.0	▲24.6	▲27.8	▲20.3
仕入単価	▲64.6	▲61.5	▲57.6	▲60.9	▲66.9	▲66.9	▲53.4
販売単価	36.0	35.6	31.0	27.3	34.7	32.3	26.3
従業員	35.3	31.8	31.7	31.3	31.6	31.6	31.6
資金繰り	▲17.3	▲11.9	▲13.0	▲15.6	▲13.1	▲13.5	▲12.8

## 旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2024年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 2024年12月～ 2025年2月
建設	▲50.0	▲35.5	▲35.5	▲29.0	▲29.0	▲36.3	▲24.2
製造	▲42.4	▲29.4	▲22.8	▲36.7	▲25.0	▲32.2	▲29.1
卸売	▲17.3	▲20.7	3.2	▲3.4	▲15.4	▲10.7	▲3.6
小売	▲38.1	▲20.0	▲21.0	▲16.6	▲16.7	▲15.8	▲26.3
サービス	▲27.3	▲9.6	▲17.4	▲35.0	▲17.4	▲4.6	▲9.1

## 今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革への対応は事務所レベルではさほど問題なく達成できるが、現場では工期に間に合わせるよう冬に非効率ながらも残業させる必要がある可能性が高い。新規就業者が外国人以外入ってこないことを考えると、法の修正・例外規定の追加を考えてほしい。（総合工事）</li> <li>・新築戸建を中心に工事量の減少が止まらず底を打ったという状況ではなく、さらに低迷すると感じている。政府の補正予算は予算使い残し分と予算の上振れを足したような額が一般会計から支出されるようであるが、これで本当に日本経済・地方経済の成長につながるのか。我々の業界も潤うのかが不安である。（設備・その他）</li> <li>・大工不足による工期の進捗を念頭に置きながらの事業展開については課題が多く、人材育成や若手大工の採用が急務である。また、業績改善が進まないなかの賃上げは、従業員の離職防止策という面とコスト増加による経営上のダメージとの相反するものであり難しい問題である。いずれにしても生産性を高め収益力アップが必至である。（建築業）</li> </ul>
製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新商品セットにより売上が急上昇しているが労働環境の悪化が懸念される。作業・商品事故が起こらぬよう配慮。（食料品）</li> <li>・売上高は昨年より増加しているものの、仕入原材料・人件費の上昇により利益が伸びていない。（食料品）</li> <li>・原材料及び諸経費関係が10月1日から10%～20%値上がった。弊社も販売価格を10月1日より値上げする意向を9月中に周知した。やっと11月に入り少しずつ値上げの成果が反映されてきた。（印刷・出版）</li> <li>・原材料(原木)の入荷が不安定。工場の従業員募集をかけているが集まらない。（家具・木材）</li> <li>・令和7年度公共投資の動向が気になっている。デフレ脱却に大型予算を投じて欲しい。（金属窯業他）</li> </ul>
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務システムの老朽化対策を進めている。（食料品）</li> <li>・前年度より若干の売上増加があるが、経費高騰などにより利益に関しては同等かそれ以下になっている。（機械鋼材）</li> <li>・当月の業況については、前年同期と比べ売上げはやや増加。春先より推進していた非営利団体から大口の契約を獲得。年内に入金が見込まれることから本決算は概ね事業計画に沿った形で着地するものと思われる。（その他）</li> </ul>
小売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円安のためインポート(輸入)商品価格が10%～20%値上がり販売に大変苦労している。また天候が秋なのか冬なのか気温差があり来店客数が非常に少なく売上也厳しい。（衣服身回品）</li> <li>・客数は前年並だが、販売点数が減少。高騰気味の青果物不振に加え、前年たまご騒動末期の需要増反動による。（食料品）</li> <li>・原材料等の値上げの影響を受け始めている。（食料品）</li> <li>・冬物商品の出足が鈍い。人件費などの経費増加分を生産性改善でカバーしきれていない。（その他）</li> <li>・まだまだ個人消費が落ち込んでいる。食糧・エネルギー関連費がまだ高止まりのため、先が見通せない。（その他）</li> <li>・新車の販売増と販売単価上昇、中古車市場の活況により当月の利益は前年を超える見込みだが、年末にかけ売上が落ち込むと予想しているため、今期の営業費の増加を考慮すると来月以降の業況は厳しいを考えている。（自動車）</li> </ul>
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人員不足。今後、オペレーションを変更せざるを得ない状況になる可能性は有。また、賃金の上昇が経営を圧迫している感が否めない。賃金上昇と売上が追いついていない(人員不足も併せて少し厳しい感がある)。料理の仕入れ等も単価が上がり料金を転嫁できていない。（理美容・クリーニング）</li> <li>・今期は大型案件の受注が相次ぎ、売上はこれまでにない高水準に達しているが一時的なものであるため、来期以降の売上を見据えた経営戦略が求められる。（その他）</li> <li>・足元の業況は堅調に推移回復基調であるが、これからの支出増に対する資金繰りに苦慮している。部門によっては規模の縮小も考えなければならない。（運送）</li> </ul>

## 旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI1.7 ポイント改善、採算 DI0.5 ポイント悪化、仕入単価 DI1.7 ポイント悪化、販売単価 DI7.8 ポイント改善、資金 DI2.5 ポイント悪化、従業員 DI5.9 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 7.3 ポイント悪化となった。業種別では、建築業 20 ポイント改善、総合工事 14 ポイント、設備・その他 22 ポイント悪化となった。今後更に工事資機材価格が高騰するため、利益率が下がると想定しているとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI2.8 ポイント改善、採算 DI4.3 ポイント悪化、仕入単価 DI5.4 ポイント悪化、販売単価 DI5.4 ポイント悪化、資金 DI5.8 ポイント改善、従業員 DI9.2 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 7.2 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 25 ポイント改善、印刷・出版 10 ポイント、家具・木材 29 ポイント、金属窯業他 11 ポイント悪化となった。主力商品の原材料である「昆布」の漁獲量が激減しており、価格高騰のみならず原材料不足であるとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI11.3 ポイント改善、採算 DI10.7 ポイント悪化、仕入単価 DI4.7 ポイント改善、販売単価 DI10.7 ポイント悪化、資金 DI0.2 ポイント改善、従業員 DI5.4 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 4.7 ポイント改善となったが「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、食料品 33 ポイント悪化、繊維・衣服等 50 ポイント、機械鋼材 1 ポイント、その他 14 ポイント改善となった。全てのコストが高止まり。利益率重視に転換との声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI7.0 ポイント改善、採算 DI3.3 ポイント悪化、仕入単価 DI7.3 ポイント悪化、販売単価 DI3.3 ポイント改善、資金 DI5.0 ポイント悪化、従業員 DI9.0 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 0.9 ポイント改善となったが「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、自動車 25 ポイント悪化、衣料品、その他横ばい、食料品 17 ポイント改善となった。仕入れ価格の大きな変動、販売単価を上げる方策との声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI5.3 ポイント改善、採算 DI4.4 ポイント改善、仕入単価 DI10.7 ポイント改善、販売単価 DI7.7 ポイント悪化、資金 DI5.5 ポイント悪化、従業員 DI6.5 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 12.8 ポイント改善となった。業種別では理美容・クリーニング、その他、運送横ばい、ホテル・旅館 40 ポイント、飲食 25 ポイント、整備業 17 ポイント改善となった。労務費等のコスト増や価格転嫁との声も寄せられている。</p>